

# “大陸連合”：ヨーロッパの義勇兵が東ウクライナでキエフ軍と戦っている

August 30, 2014

RT

[http://img.rt.com/files/news/2c/e3/80/00/ukr1300\\_480p.mp4?event=download](http://img.rt.com/files/news/2c/e3/80/00/ukr1300_480p.mp4?event=download)

ヨーロッパからの義勇兵が続々とウクライナに流れ込み、両側で戦いに参加している。キエフ軍は私的軍事会社からの傭兵で補強されているのに対して、ヨーロッパ人はまた、自分の自由意思で、反政府のドンバス地区を防衛するために集まっている。

東ウクライナの反キエフ軍の最も新しい援軍の一つは、数千キロも離れた自国からこの戦いに参加するためにやってきた、4人の兵役経験のあるフランス人である。

「これは我々の戦いだ、みんなの戦いだ、ヨーロッパの戦いだ」と、ドンバス地区を防衛するフランスの戦士ギョームは RT の記者 Paula Slier に話した。



もう一人の義勇兵、25歳のニコラは、フランスのエリート山岳部隊に5年間いたプロの兵士だ。いま彼は自分の技術をウクライナで役立てようとしている。他の外国人義勇兵の部隊とともに、彼は市街ゲリラ戦で反キエフ軍を訓練している。

「この人たちは人民の民兵団で、傭兵でも職業兵士でもない。だから訓練が必要なのです」とニコラは言った。

「彼らは現実的な動機をもっている。それに対してキエフ軍は NATO の傀儡のようなものだから、動機というようなものは全くもっていない」とニコラは言う。「彼らを前にも見たことがあるが、彼らは動機付けがほとんどないから、自分がなぜ戦っているのか、誰を相手に戦っているのかわからず、それが我々にとっては強みになっている。」



このフランスの志願兵は、ヨーロッパの義勇軍が、ウクライナの反乱軍に交じって、この国の東部地区で「市民を守る軍事行動」と言われているものを実行しているのは、象徴的なことだと説明した。

「西洋からきたこれら多くの人々にとって、西側政府が悪い大義、悪い奴らの大義と考えているものを防衛するためにやってきたのは、初めてのことです。だから、西洋から来た人たちは、彼らの政府とははっきり別物であること、他所の世界を防衛するために、命を賭して戦う覚悟で、ここにきたということを示すのは、非常に重要なことです」と、ニコラは言った。

そして、ますます多くの海外の戦士が、反キエフ軍に参加の意思を表明して、共に戦おうとしている。

<iframe width="681" height="383" src="//www.youtube.com/embed/ahdROttr\_o8" frameborder="0" allowfullscreen></iframe>

RTの Paula Slier 記者は、ドネツク戦線にやってくる義勇兵は、フランスからだけでなく、スペイン、ポーランド、イスラエル、英国からも来ていることを確認した。

ルガンスク地区から来た“Prizrak”（幽霊）部隊の司令官 Aleksey Mozgovoy は、MK.ru ニュースへのインタビューで、彼の率いる 1,000 名からなる大隊には、ブルガリア、スロヴァキア、ドイツからきた戦士がいると話した。

このインタビューによると、キエフ軍と戦っている最も大きな国際部隊の一つは、セルビアの義勇軍ユニットだという。“Jovan Shevik” 部隊は、自称 250 名の戦闘員からなり、ルガンスク地区で活発に行動している。



セルビアのチェトニック民間警備隊の一員 Milutin Malisic

今週初め、ドネツク人民共和国の閣僚会議議長 Aleksandr Zakharchenko は、ロシアのメディアへのインタビューで、4,000 に及ぶ、多くは兵役を退いたロシア市民が、ウクライナ東部のキエフ勢力の崩壊のとき、反政府軍に加わっていたことを明らかにした。

「彼らがいなければ、我々が戦闘を続けることは困難だったでしょう」と、ザハルチェンコは、現時点では、多くのロシア市民はすでに帰国していることを強調して言った。

東ウクライナの最近の戦闘の展開状況は、7,000 に及ぶウクライナ軍と州兵ユニットが、3つの包囲網に分かれて包囲されていて、これは反乱軍にとって希望となっている。

「ウクライナ軍は、冬まで、いや秋までも、持たないだろうと我々は考えている。彼らは日

ごとに金がなくなり、動機づけも人力も弾薬もなくなっているからだ。だから日一日と彼らは弱っていき、我々は強くなっている」と、フランスの戦士ギョームは RT に語った。

ヨーロッパは今、困難にぶつかって身動きが取れなくなっている。ますます多くの若者が、その同盟国と戦う志願をしているのを、どうするのだろうか？

「法的には、フランス政府が我々にどんなことができるのか知りません。まず何より我々は報酬をもらっていないから傭兵ではないし、テロリストでもない、ジハーディスト（聖戦士）でもないのだから。そしてもちろんこれは情報のミッションであり、政治的ミッション、ソフトパワーのミッションです」と、ウクライナのフランス・チームの司令官 Victor Lenfa は RT に説明した。



そしてこのミッションは、今、西洋の義勇兵部隊が“大陸連合”（United Continent）という名のもとで連合しつつあり、更に強化されつつある。

### キエフのために働く外国人傭兵

国連の安全保障理事会が、木曜日、ロシアの東ウクライナでの停戦要求声明を、完全に浮薄な口実によって拒絶したあと、ロシアの国連使節 Vitaly Churkin は、アメリカやウクライナからの同役と白熱の議論を交わしたが、彼らはまたしても、ウクライナで多くのロシアの義勇兵が戦っていることを、ロシアの完全な侵略だとして非難した。

ヴィタリー・チュルキンはこれに応酬して、誰もロシアの義勇兵の存在を隠そうとした者は

いないと言い、ワシントンは、米アドバイザーがキエフにいることを認めよと言い、また、なぜ私立軍事会社の傭兵が、ウクライナで戦争を行っているのかを説明するように求めた。

「おそらく我々のアメリカの同役たちは、キエフの国家安全保障・防衛会議本部で、何十人という米人アドバイザーが何をやっているかを言えるはずだ。彼らは、どれだけの数の、いわゆる“安全保障供給”会社の傭兵が、本国から遠く離れたウクライナまで来て戦っているのかを言わねばならない」と、チュルキンは言い、最高級のアメリカ製の兵器が、ウクライナ軍の間で見つっていると付け加えることを忘れなかった。

正確に1カ月前、ロシアの *Rossyskaya Gazeta* 日刊紙は、自称ドネツク人民共和国の前防衛長官 **Igor Strelkov** の言葉を引用した——ストレリコフは、7月末の時点で、自衛軍が、たくさんの外国の私立軍事会社から送られていた 330 名に及ぶ傭兵を除去した、と主張している。

ストレリコフは各会社の兵の死者の内訳を明示し、ポーランドの私立軍事会社 **ASBS Othago** は 139 人の兵を失い、アメリカの **Greystone Ltd.** (**Blackwater/X/Academi** に属する運送会社 **Vehicle Services Company LLC** の子会社) は 40 名の戦士を失い、一方 **Academi** 自体は 125 名の人員を失っている、と述べた。

<https://www.youtube.com/watch?v=1VFMAlv8yvA>